

戦後 80 年 那覇市議会 平和宣言

2025 年の夏、アジア太平洋戦争・沖縄戦終結 80 年の節目の年を迎えました。この戦争は、沖縄県民 12 万 2 千人以上、日本国民 310 万人以上、アジア諸国民 2 千万人以上の尊い人命を奪い去りました。那覇市議会は、全ての戦争犠牲者の方々に深い哀悼の意を表します。

ここ県都那覇市は、1944 年 10 月 10 日の米軍の大空襲で市街地の 9 割を焼失し、1945 年 3 月末に始まり、米軍の砲弾が約 3 ヶ月も吹き荒れ、「鉄の暴風」とも称される沖縄戦では、地下に日本軍の司令部があった首里城も跡形もなくなり、街も、文化遺産もほとんどが破壊され、地形も変わってしまったといわれているほどの凄惨な戦場となり、その犠牲者は 20 万人を超えています。

その後、沖縄は 27 年間にわたり米軍の直接統治下に置かれ、いまなお、0.6%の国土面積に米軍専用施設の約 7 割が存在し、基地の島として過重負担に苦しみ続けています。

沖縄戦は、日本本土を守るため、沖縄になるべく米軍をひきとめて時間をかせぐ日本軍の「戦略持久戦」により、軍人よりも一般住民の戦死者がはるかに上まわっていることに最大の特徴があり、一般の住民は 9 万 4 千人、沖縄県民全体では 12 万 2 千人以上で県民の 4 人に 1 人が犠牲となっています。この冷厳な事実こそが、沖縄戦の最大の教訓として「軍隊は住民を守らない」とされてしまう理由です。

この沖縄戦の体験こそ、とりもなおさず戦後の那覇市民と沖縄県民が、世界の恒久平和を強く希求する沖縄のこころの原点となっています。“沖縄のこころ”とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心です。

いま世界各地では、戦争や紛争、貧困、暴力、人権の抑圧、差別、環境破壊など、「平和」とは相容れないことが起きています。私たちは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認し、その実現を強く願うものです。

よって、那覇市議会は、戦後 80 年の節目にあたり、沖縄戦の正しい実相と教訓をあらゆる機会でも共有し、継承・発信して平和行政と平和教育の充実を促進します。第 32 軍司令部壕の保存公開など戦争遺跡群の保存・活用、核兵器廃絶に力を尽くします。また、戦没者や戦争体験者を冒瀆（ぼうとく）し、県民の尊厳を踏みにじる沖縄戦の事実を歪曲する動きには厳として対峙し、事実をもってその誤りを正していく決意です。

戦没者の遺骨収集や不発弾処理など解決されていない、今なお残る戦後処理問題の根本的な解決に向けては、国の責任で実施するよう県・市町村と一体となって力を尽くします。

そして、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、二度とあの凄惨な沖縄戦の悲劇を繰り返すことがないように、万国津梁の精神でアジア諸国との対話と友好の交流を促進し、世界の恒久平和を希求する“沖縄のこころ”“命どう宝”を発信し、次世代につなぎ、その実現のために、31 万余の市民と力をあわせてあらゆる努力を惜しまないことを誓い、ここに宣言します。

以上、決議する。

令和 7 年（2025 年）6 月 25 日

那覇市議会